

七不思議葛飾譚
葛草篇上下

遠 13
2686
5





将
子
物
次

名
物
物

五
分
上

特
へ13
2686
5



七不思何奇飾物撰
 松亭種彦撰



余程不器用の者ありし。近頃流行三題話の社入られど訥辨映舌解す
 ぬらしそれ落をさそ。又此頃の重合と云事ありてかりて。景物を
 一もどくまに。物の年數隻手餘る節分のみめをとりて取得めて
 耳順を起ても眼鏡をかりぬと自慢をもち老る證故も引込り宜ころれ
 今年も辭せぬ初編物氣が昔飾の七奇胡蝶巻と負さ劣らどよく馬
 うと云問屋の歡悦流行後ある杖御の作も看棄のそぬむひつと達
 さても茶人と感心。透木のまをり出情。五徳の五編も中る書了ぬ
 自在の竹の一節も死書あり飽たもりて白炭の松と梅初春
 毎の年玉小澤山りめとめとてんてん

慶應元年乙丑四月稿成
 同二年丙寅新春刊行

柳亭種彦

古竹書



片名班次郎



砂村の於狂鬼
も傾城官敵

古倉三郎



西早五

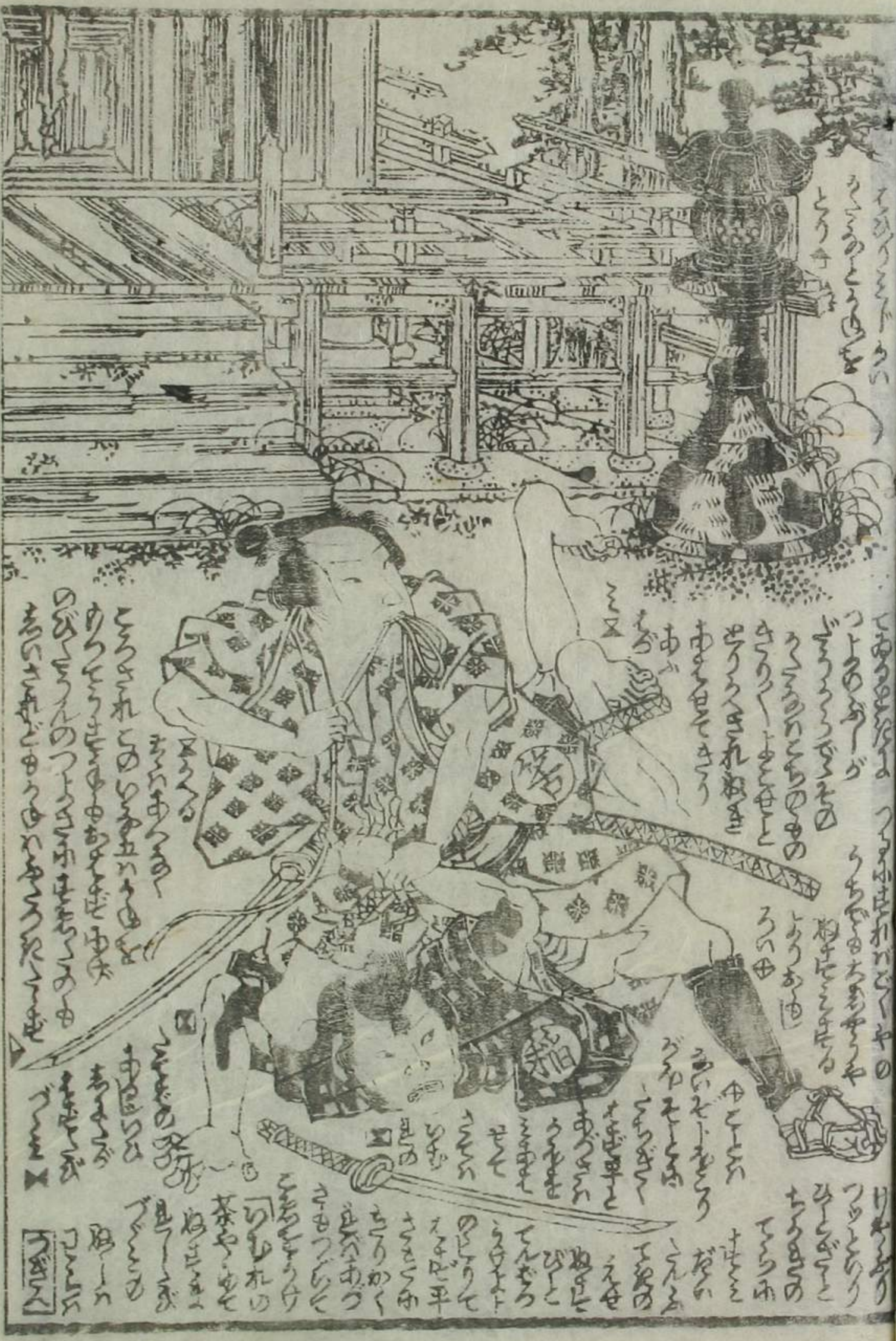
二

Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the left page. The text is arranged in several vertical columns.



西早五

Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the right page. The text is arranged in several vertical columns.





Handwritten text in vertical columns, reading from top to bottom on the left page. The text is written in a cursive Japanese style.

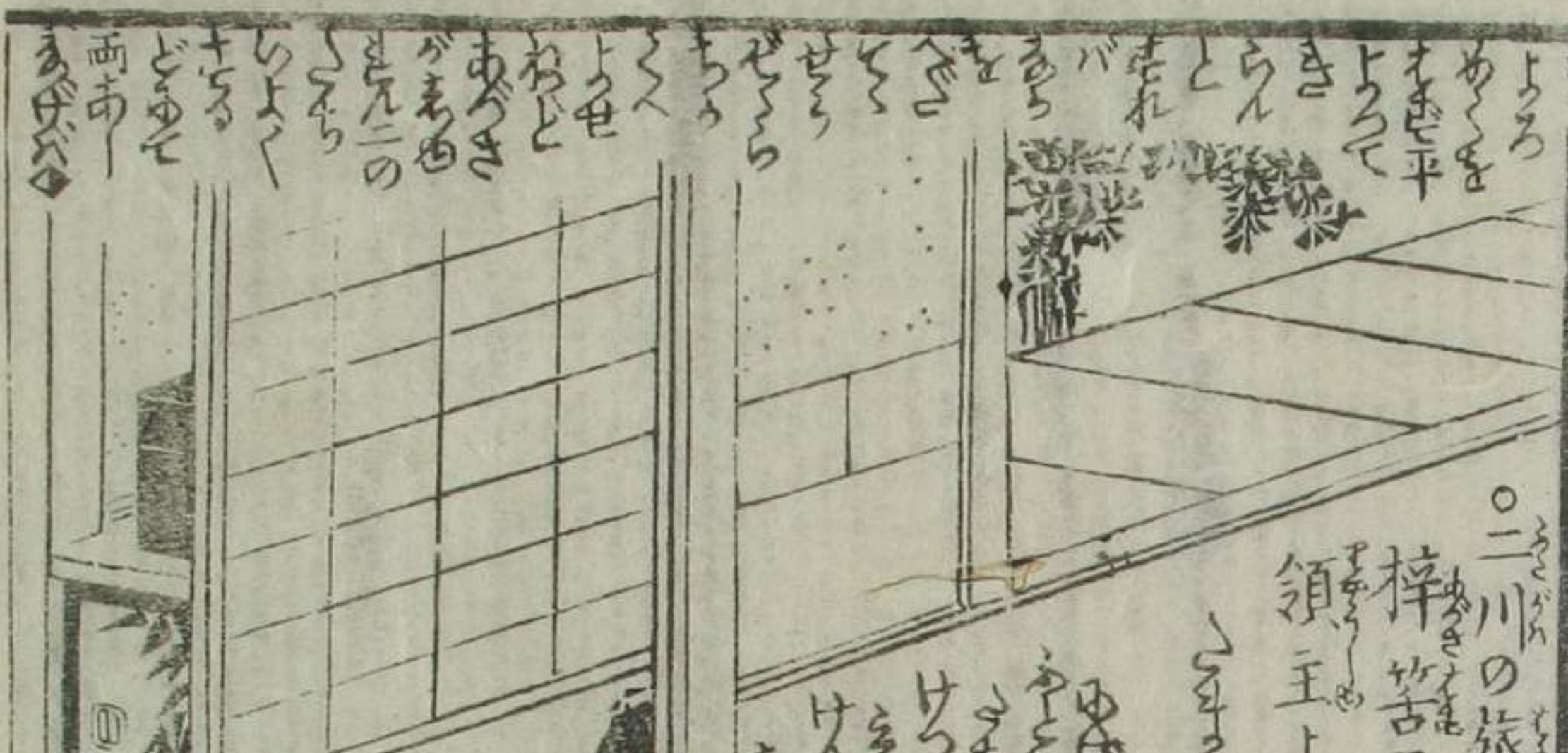


Vertical handwritten text on the right edge of the illustration on the right page.



このぬいものもあつた
よもぎもあつた
きんぎょもあつた
けりもあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた



二川の旅店にて
梓苦平
領主より物を
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの

おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの
おかしなもの



實母散
 此方は母の病を治すに用ひるなり
 一服 葛原言五
 十一年 葛原言五

柳蔭月朝妻
 山々亭有人作
 梅朝樓國貞画

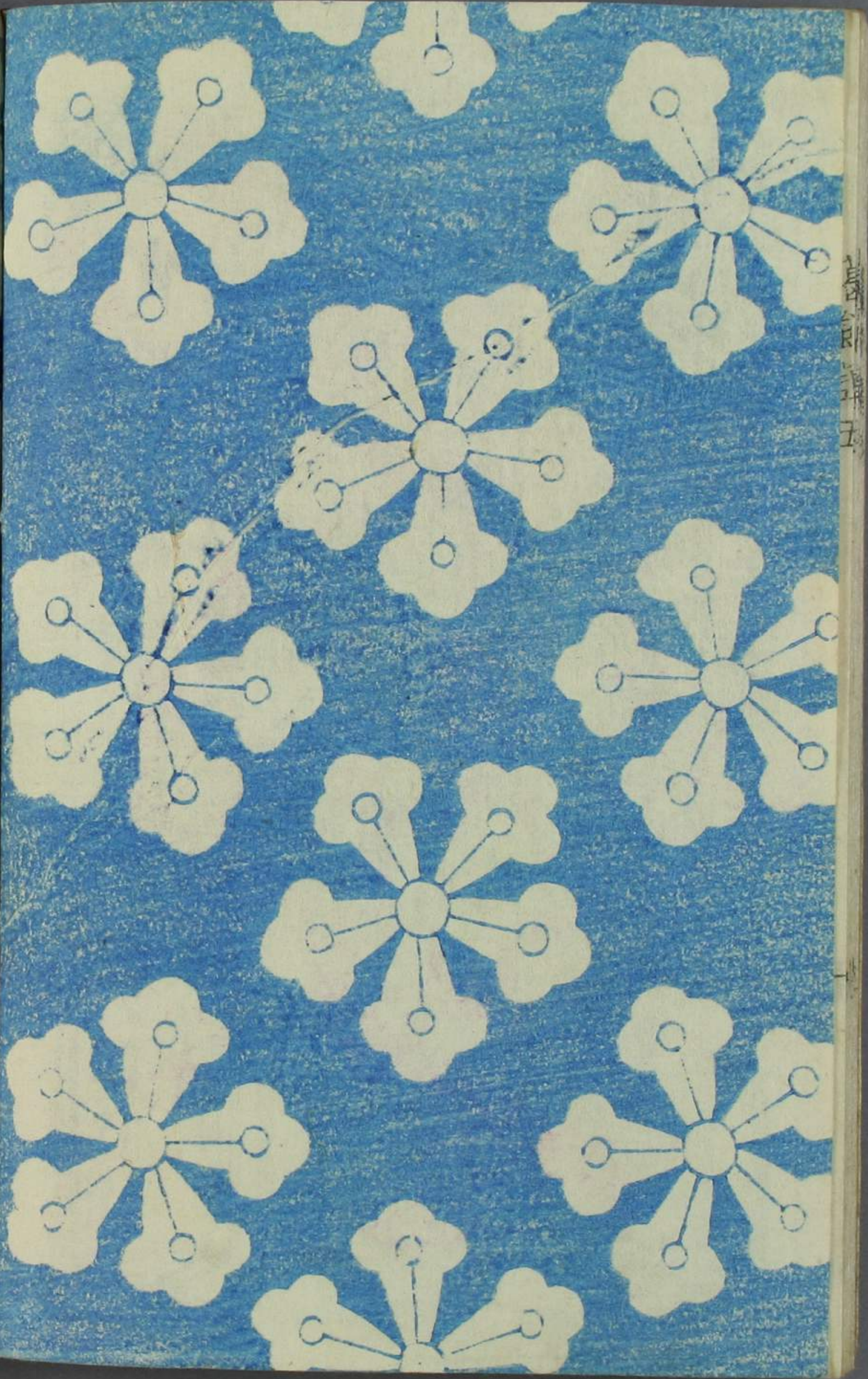
藪黃鷄八幡不知
 山々亭有人作
 錦朝樓芳祐画

此方は母の病を治すに用ひるなり
 一服 葛原言五
 十一年 葛原言五



五篇下

國貞
圖





江戸市街一景



押帳

い
ま
の
し
ら
せ

馬寄持



三果







此運公道左
 暇物語

此の通りは、
 山崎の古薬師を
 祀る所なり
 其の神は、
 山崎の神と
 申すなり

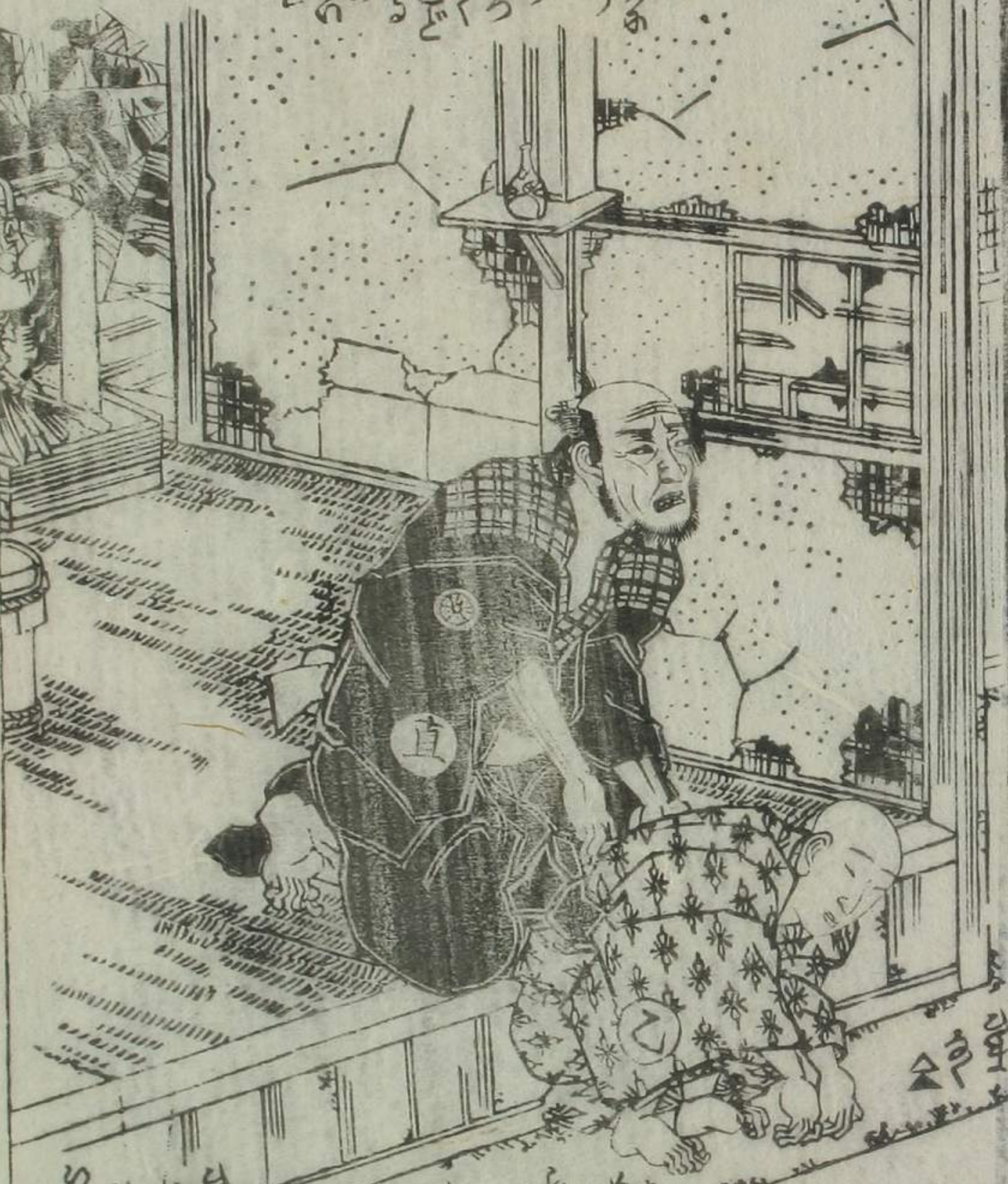
此の通りは、
 山崎の古薬師を
 祀る所なり
 其の神は、
 山崎の神と
 申すなり

此の通りは、
 山崎の古薬師を
 祀る所なり
 其の神は、
 山崎の神と
 申すなり



此の通りは、
 山崎の古薬師を
 祀る所なり
 其の神は、
 山崎の神と
 申すなり

おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの



おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの

おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの



おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの
おれは此の世に
何事も成さず
ただただの



Handwritten text in Japanese characters surrounding the dining table illustration, likely describing the dishes or the occasion.



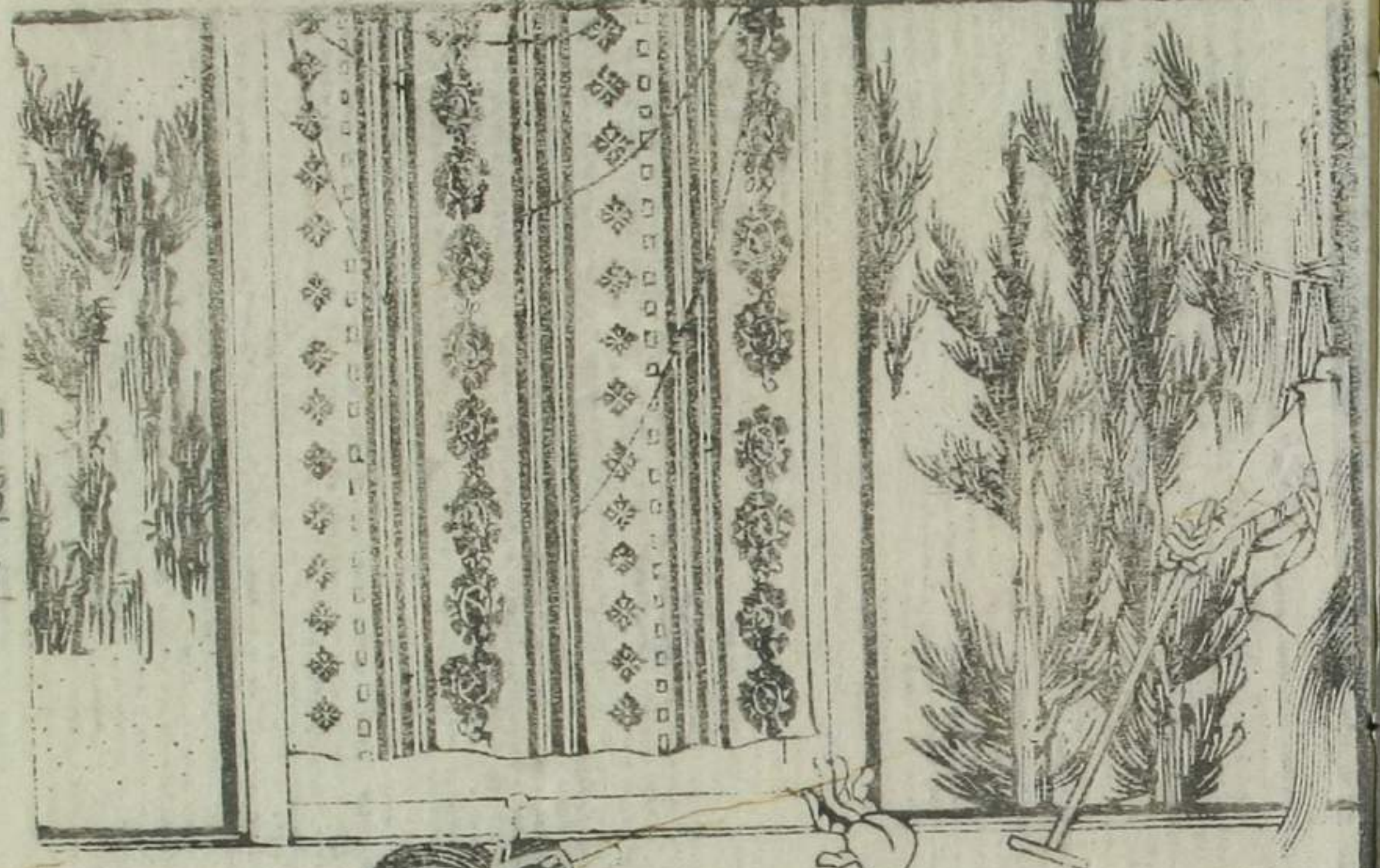
Handwritten text in Japanese characters surrounding the illustration of the two women, likely describing their activity or the items they are using.



Extensive handwritten text in Japanese characters surrounding the large illustration of the women, providing detailed descriptions of their attire and the scene.



The left page of the right-hand page features a column of handwritten Japanese text. The text is organized into two distinct sections, each enclosed in a rectangular box. The first section contains approximately ten lines of text, and the second section contains approximately twelve lines. The handwriting is a clear, cursive style.



The right page of the right-hand page features a large illustration of a seated woman in a kimono. She is wearing a kimono with a prominent floral pattern and is holding a long, thin object, possibly a stringed instrument or a brush, across her lap. To her left is a small table holding a bottle and a cup. Below the illustration is a column of handwritten Japanese text, organized into two sections enclosed in rectangular boxes. The first section contains about ten lines, and the second section contains about ten lines.

明治四年壬午春陽開校標目



甚飾譚五

ついでにまわすのびく
さうり小けり

種彦作國貞画

厚化粧の女

新局九尾傳

種彦作

審源の明神巻

筆海四國開書

種彦作

鼠洞通夜譚

明鏡雲通夜物語

種彦作

童謡妙車

花封苔五章

種彦作

薄保如日記

大傳大の双紙

種彦作

十面女葛飾譚

萬屋古版



